

平成29年度第5回講演会 記録

日 時	平成29年6月10日(土) 13時～16時	
会 場	此花会館梅香殿	
講 師	旅館 海月 女将、海島遊民くらぶ 代表 江崎 貴久 先生	
演 題	海と遊び、海を守る	
備 考	参加者数 177名(会員 156名、一般 20名、他1名)	記録 藤原雄平



江崎 貴久先生は、23歳で鳥羽の老舗旅館 海月の5代目女将に就任後、従来の紋切り型の観光業に疑問を感じ、伊勢志摩のあるがままの自然と生活文化を生かした新しいエコツアー「海島遊民くらぶ」を立ち上げて活動されてこられました。本日は、「海島遊民くらぶ」設立の背景や目的、具体的な活動内容について、講座生への問いかけも交えながら、にこやかにして立て板に水の如く一気呵成に講演していただきました。尚、8月の「鳥羽自然観察会」についても、企画内容の紹介、及び観察会への勧誘までもしていただきました。

《講演概要》

- ①旅館の女将や、ツアーガイドをし、漁業の勉強をしている現役女子大生でもあるなど多面にわたって活動しているが、共通するのは、日本の魅力、伊勢志摩の魅力を外部に伝えることにより、人を幸せにすること。
- ②伊勢志摩サミットでプレスツアーの手伝いをしたが、単なる観光PRでは世界に発信されず、社会生活とか経済生活に結び付いたものでなければならないことを再認識しました。
例えば、鳥羽沖の答志島に残る寝屋子制度や特別な魚市場などの漁民の暮らしぶり。伊勢神宮のおかげ横丁で、昔ながらの作り方にこだわる漬物屋や、鯉節屋の生き様。女性が漁業に活躍する海女の実態などの様に。
- ③鳥羽では先ず漁業があって観光があるという前提の基、海島遊民くらぶの活動は、地元の人々、地元食材、地元の自然の組合せの中から、自分たちが好きなものを他の人にも知って欲しいという思いでツアープログラムを作成しています。
- ④漁業と観光が連携して持続可能な地域社会を支えて行く。観光とは、国際平和と国民生活の安定を象徴するもの。“らしさ”、“ならでは”による受動的な「観光＝感幸」から、観光を利用して幸せを成す能動的な「成幸」へ活動目的をステップアップ。有料プログラムへの参加者が鳥羽だけでも年間4万人に増加。
- ⑤エコツアープログラムの一部紹介
 - ・ホテル+ワインツアー・・・・・・海ホテル見学とワインを楽しむ大人向け夜ツアー
 - ・つまみ食いウオーキング・・・・・・ 地元の鮎屋など数軒を回り店長他から生の話を聞く
 - ・無人島たんけんプログラム・・・・・・自然を守るルール、漁民への配慮を学ぶ
- ⑥島っ子ガイド(子どもたちのガイドボランティア)

コミュニケーション機会の少ない離島の子供たちに島内のガイドをしてもらうことで意識を改革、子供たちだけでなく大人たちも好変化。「島っ子ガイド」は他地域にも拡がりを見せている。
- ⑦鳥羽自然観察会の企画内容紹介
 - 一日目：無人島シュノーケル
 - 二日目：波切の鯉節いぶし小屋体験、海女漁業体験、海女との交流
 - 三日目：答志島散策(魚市場など)

以上